

1.待機児童

潜在的待機児童も年度途中の待機児童もゼロを目指して参りますが、保育士の確保は困難を極めております。現状も給与水準向上等の施策が行われておりますが、引き続き尽力して参ります。

2.保育の質

保育士が不足している現状で配置基準を厳しくすると、保育できる子どもの数が減り、待機児童が増えてしまいます。バランス取りながら改善を目指しますが、根本的には保育士の確保を解決しないと前に進みません。

3.経済的負担

副食費の実費徴収により、無償化前に比べて負担が増える「逆転現象」が生じる世帯に関しては、「逆転現象」分に限って補助を検討しております。京都市は保育士確保に多くの財源を投入しております。財源とのバランスを見ながら多子減免等も検討して参ります。

4.給食

給食費は無償化が望ましいですが、国により全国的に行うべき事項です。国への要望を行いながら、「逆転現象」については市独自で補助を行って参ります。

5.市営保育所

市営保育所と民間保育園で、民間保育園の方が提供されているサービスが低いとは考えておりません。一方で障がいのある児童の受け入れが民間保育園で進まないことは課題に感じています。市営保育所を一定数残し、地域の偏在なく障がいのある児童を受け入れられる体制を維持します。

6.お布団、おむつ

おむつの持ち帰りについては、全面的に廃止し、園と保護者の負担軽減に努めます。お布団に関しては、円や保護者の意見を改めて確認して検討して参ります。